

令和6年度 全国学力・学習状況調査(6年生99名実施)の結果から

我孫子市立高野山小学校
学力向上委員会

国語

○観点別正答率

- ・「話すこと・聞くこと」の観点について、平均より上回っている。
- ・「読むこと」の観点について、平均より上回っている。
- ・「書くこと」の観点について、平均より上回っている。

○問題形式ごとの正答率

- ・「記述式」と「短答式」の正答率は、平均よりやや下回っている。
- ・「選択式」の正答率については、平均より上回っている。

算数

○観点別正答率

- ・「データの活用」の観点について、平均より上回っている。
- ・その他の「数と計算、図形、測定、変化と関係」の4つの学習指導要領の領域は平均よりやや下回っている。

○問題形式ごとの正答率

- ・全ての形式で全国の正答率と同等の数値である。

児童質問紙調査

- 「国語への関心等」についての数値は昨年と同様である。「自己有用感」もコロナ禍の時より数値は上向きではあるが、マイナスのままが続いている。「生活習慣・学習習慣」は向上をし、マイナスから今年度、脱却をした。教職員が校内で「高野山メソッド」や「よいこの決まり」を共通理解の基に取り組んでいるからこそその結果であると考え。しかし「学習習慣がある」と答えているにもかかわらず、教科調査の計算領域・図形領域と基礎基本が身につけていない。

<結果からわかる成果と課題への取り組み> ○…成果 ▲…課題

【国語】

「話すこと・聞くこと」

- 国語の学習だけでなく、他教科でも子ども達の対話する場面を設定することで、話し言葉と書き言葉の認識が高まっている。聞き手を意識した話し方や、何を述べているのかなどを理解していることがわかる。
- ・学習だけでなく、生活場面の中でも、意図的に自分の考えを話す場を設定することで、より力を伸ばしていきたい。

「書くこと」

○物語を読んで、心に残ったところと、理由を述べる問題では全国平均を上回ることができている。

▲「たて割り遊び」の良さは理解しているものの、自分の考えを書きだすことができず、事実と感想、意見とも明確に区別できていない児童が半数いる。

<授業改善>

・昨年度から言われていることだが、日常的に書く場面を多く設定し、認め承認する場面を多く設けることで、苦手意識を少しずつでも解消していく。

・書くことについても、より具体的なものを書くようにし、交流等を通して、書くことが楽しいと思えるような活動を設定すること。

例) ×読んだ後に感想を書きましょう ➡ ○このお話の中で一番好きな場面を書きましょう (理由も)

×書いたものを発表 ➡ ○みんなでノートを持ち寄って、同じ場面の人を見つけ、理由を交流等

・協働的な学び、話し合い活動を通し、他者の意見との相違点を考えさせる時間を設定し、深い学びにつなげていく。

「言語事項」

○学年配当表に置いて既習の漢字を使い、言葉を漢字に書きなおすという問題では、全国平均と同等の数値で正答している。

▲言葉を漢字に書きなおす際、漢字が定着しておらず、片方の字しか書けない児童がいる。また前後の文脈から該当漢字を見出すことができず、同音異義の漢字を書く児童も数名いた。

<授業改善>

・モジュールの時間を使い、ドリル学習で繰り返し練習させたり、習った漢字を使ってノート整理や新聞をまとめさせたりするなど、繰り返し使う習慣を各教科で取り入れ、環境を整える。練習だけでなく、習熟を図れるように小テストを実施する。

「問題形式」

○今回のテストでは例年に比べると問題形式に関係なく、無回の児童が少なく、問題内容を読解する力や解決しようとする前向きな力がついてきているのではないかと考える。

・国語だけに関わらず、さまざまな教科で、知識理解の向上を図るため、教科書を読んだり、問題解決学習を通して達成感を味わったりすることを今後もおこなっていく。

【算数】

「数と計算」

○はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたとき、問題場面を□を使って立式する問題に9割以上の児童が答えられている。

▲ (3位数) ÷ (少数) の筆算について、位を意識して商を求めることに苦手な児童がいる。

▲ 答えを求める問題ではない、商の大きさについて考え、正しいものを選んだり、かけ算の工夫を考えたりする問題に苦手意識がある。

<授業改善> ・友だちの意見を聞き、自分でもう一度説明できるか、授業での繰り返す場面を設定する。

・習得した知識を活用する。発展問題に多く取り組む時間を、授業の中で意図的に設ける。

・授業内の習熟問題だけでなく、繰り返し問題を解き進めるために「計算タイム」を活用して取り組む。

「図形」

○図形を構成する要素に着目して、5角柱の面の数や底面と側面の位置関係、構成の仕方について理解している児童が全国の平均と同等の正答数いる。

○図形を構成する要素に着目して問題を解くことはできている。

▲円の直径や、立方体の体積とを複合し、いくつかの情報から導き出す問題に苦手意識がある。

<授業改善>・習得した知識を活用する時間を、授業の中で意図的に設ける。

例) 図形の情報を基に、作図する練習問題を行う。

(できれば、作図だけでなく、言葉でも説明できるようになど工夫して)

・授業の中に、自分の考えを相手にわかりやすく伝える場面を設ける。また、図形の定義を再認識させるため、再度説明させる。

例) どんな図形になるかな?⇒なぜその図形になるのか伝え合ひましょう。

小さなことだが、このように相手に伝える習慣をつけることで、説明するための素地を培う。

「変化と関係」

○時間と距離の関係性を元に、関係性を活用し問いに答えることができる。

○グラフを読み取り、変化と割合を読み取ることができる。

▲時速を活用した距離の問題では、なぜ速いのかなど根拠を元に説明することに苦手意識がある。

<授業改善>・習得した知識を活用する時間を確保し、授業の中で意図的に設けることが必要。また、生活体験と結び付けた学習にしていく。

例) 数量が変わるとそれに関する数値にも変化がおこる。どのように変化するのか具体物を用い関係性を考えさせる。

「データの活用」

○グラフの意味を理解し、全体の部分の関係に着目し、ある項目に当たる数を求めることができる児童が多い。

○目的に応じて折れ線グラフや円グラフから読み取り、見出した違いを言葉や数を用いて記述することができる児童が多い。

<授業改善>・算数科だけでなく、資料を整理したり読み取ったりする場面を関連付け指導にあたる。また、資料の必要性を考えさせる意図的な指導を継続して行っていく。

「問題形式」

○短答式の問題の正答率が、全国平均よりも高かった。

○他の記述式や選択式も全国平均に近い正答率であった。しかし5割から7割と8割には届いていない。

・昨年度も述べたようにさまざまな教科で、自分の考えや意見を文章化するということが今後の学力向上に必要である。

・学習の問題解決に多様な方法で思考する場面を仕組み、様々な考え方を共有できるような授業づくりをしていく。

・授業だけでなく、児童にきちんと自分の考えを説明する場を設ける。

・生活体験と結び付けた問題を解くことにより、自分が体験したことをもとに、根拠をもって学習を進められるようにする。

【児童質問紙・クロス調査から】

・全体的に数値が高まってきている。質問については、全部で67個あり、学習面・生活面等、多岐に渡る質問項目がある。昨年同様、生活習慣がきちんと成立している児童ほど学力が高くなっている。国語や算数について興味・関

心の強い児童ほど、学力が高くなる傾向にある。全校で学習習慣定着を図る高野山メソッドを校内統一で行っている。また、職員で内容の見直しを行うことで、学校全体での意識にもつながり、児童と家庭への周知にもつながっている。学習習慣への意識が高まっていることから、今後も家庭と連携を行い児童の学習習慣の定着に努めていきたい。

- 各教科で導入から課題設定へ進む授業の流れを校内で統一して行っている。また、校内研修で算数を中心に研修を深め、指導主事からの指導助言を基に職員全体で授業改善に取り組んできた。児童の興味関心を引くよう、生活に根ざした素材を提示し、問題解決していくことで、教科への興味関心を持続させることに繋がっている。また、校内で「読書タイム」の統一や「よむよムラリー」の活動強化、3年前から取り組んでいる図書館の「そよ風号」の活用などの取り組みが国語への関心につながっているだろう。

昨年同様に教科への関心は a 高まっており、教師の指導の統一化が児童の学習への意欲につながっている。